

はじめに

毎週 OIC に来ておられる方は、これまでの説教から、ヨセフの人生の物語には幾つかの層があるとおわかりでしょう。

まず、これはヨセフとヨセフの兄たちおよび父親に関する実際に起こった話です。

次に、神はこの崩壊した家庭を健全な家庭に変えようとしておられます。

しかし、そこにはさらにもうひとつの層があります。それは、当時ヨセフ本人も知る由のなかったことですが、イエス・キリストに関することです。

ヨセフは、もっとも完全なキリストの予型でした。

神は、ご自身がアブラハムとその子孫になさった約束を成就するために、ヨセフの人生の中で働かれました。

これらのみことばのページで何が起きているのかしっかり理解するために、ここに挙げたいいくつかの層をひもといていきましょう。

まず、実際に起こったできごとについてです。

父ヤコブが家長を務める家庭は崩壊していました。

子どもたちの多くは意地悪な人たちでした。

互いを愛し合うことも、父を敬うこともしません。

彼らには、不道徳、欺き、殺人などの罪を犯した経歴がありました。

それに加え、彼らは神の民であるという帰属意識まで失いつつありました。

異邦人との結婚により、カナン人の神を拝むようになっていたのです。

非常に悪い状況でした。

なぜ、これが悪い状況なのでしょう。

それは、この家族が神の民としてのアイデンティティを保って生き残ることに、世界の救いがかかっていたからです。

実際、兄弟のひとりユダは、イエス・キリストご自身の祖先となるべき人物でした。

では、この人たちが皆救われて変えられるにはどうすればよいのでしょうか。

この家族をカナン人の神からじゅうぶんな期間切り離し、神が約束なさったように偉大な国民となるには、どうすればよいのでしょうか。

その答えが、ヨセフの物語です。

ヨセフがエジプトに送られたのは、人々を救うためでした。そして、その過程で、意地悪な兄たちがその生き方を変えられるためでした。

詩篇 105 : 16-24

105:16 こうして主はききんを地の上に招き、パンのための棒をことごとく折られた。

105:17 主はひとりの人を彼らにさきがけて送られた。ヨセフが奴隷に売られたのだ。

105:18 彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中に入った。

105:19 彼のことばがそのとおりになる時まで、【主】のことばは彼をためした。

105:20 王は人をやってヨセフを解放し、国々の民の支配者が、彼を自由にした。

105:21 王はヨセフを自分の家のかしらとし、自分の全財産の支配者とした。

105:22 これはヨセフが意のままに王の高官を縛り、王の長老たちに知恵を与えるためだった。

105:23 イスラエルもエジプトに行き、ヤコブはハムの地に寄留した。

105:24 主はその民を大いにふやし、彼らの敵よりも強くされた。

聖書の教えるところによると、この話の中でふたつのことが起こっています。

それは、この家族が救われることと変えられることです。

変化は、先週の個所から起こり始めました。

兄たちの良心が目覚め、罪悪感に苛まれて、ヨセフの聞いているところで罪を告白しました。

神は、兄たちのためにも、イスラエルの未来のためにも、状況を変えなければなりませんでした。

それは、のちにイエス・キリストがこの家系からお生まれになるからです。こうして、神の御子イエス・キリストを信じるすべての人々の霊が救われるためです。

先週、ヨセフが兄たちに穀物を持たせたうえでお金も返してカナンの父のもとに帰らせたのは恵みであったことを学びました。

神は恵みの神であります。そして、ヨセフをとおして働いておられました。

ここで少し、私たちの人生における神の働きにも幾つかの層があることを考えたいと思います。

私たちにはそれぞれ、家庭や職場など自分の居場所があります。

しかし、その外側でご自身のみこころとご計画を成就するために神が働いておられます。

私たちが苦しんだり、迷ったりするときも、神が私たちの人生にご自身の目的を果たしておられると信頼することができます。聖霊によって神のお働きに協力することが大切です。ヨセフは、そのことを悟っていたようです。

このことを念頭に、43章の学びに入りましょう。

1. エジプトを再び訪れる準備 (1-14 節)

カナンでは飢きんが続き、兄たちがヨセフから受け取った食糧も底をつきました。

ヤコブは、息子たちにもう一度エジプトに行って食糧を買うようにと言いました。

するとユダは、ベニヤミンを連れていかなければならないと言いました。

そうしなければ、食糧を得ることはできず、スパイとして牢獄に入れられるでしょう。

ヤコブはユダと口論になりましたが、結局、ベニヤミンを兄たちとエジプトに行かせることに同意しました。

家族が生き延びる方法はこれしかなかったのです。

それ以外の選択肢はありませんでした。

ヤコブは息子たちに、たくさんの贈り物と2倍の銀を持っていかせました。

それは、何かの手違いで戻されていたお金を返し、再び穀物を買うためでした。

14節で、ヤコブは次のように言います。

43:14 全能の神がその方に、あなたがたをあわれませてくださるように。そしてもうひとりの兄弟とベニヤミンとをあなたがたに返してくださるように。私も、失うときには、失うのだ。」

この個所で、私たちが注目すべきことは何でしょう。

1. 追い込まれた家族— 8節でユダは、エジプトに行かなければ家族全員が死んでしまうと父に言いました。

ここで、神の御手がこの状況を強制的に作り出されたことがわかります。

ユダには、他の選択肢は一切ありません。神は、彼が必ず行くようになさいました。

何かをせざるを得ない、またはどこかへ行かざるを得ない状況に神が私たちを置かれるとき、もしかすると私たちの人生をとおして何かすばらしいことをなさうとおられるのかもしれない。

どこかで神に仕えるために、神の御手に押し出される方向に行きましょう。

ほぼ4年前に始まった一連の出来事から始まり、神は私たちをエジプトではなく日本へと押し出されました。

神は約10カ月かけ、75人もの人々をとおして働かれ、私たち夫婦をここ大阪インターナショナルチャーチで仕えるために日本へと導かれました。

もちろんヨセフとは違った状況ですが、今振り返ると、神の御手があの状況を作り出されたことは明らかです。

私たちが選んだのではなく、神がお決めになったことだと確信しています。

追い込まれた状況は、神がその状況を制御しておられないということではありません。神は、ご自身の目的を果たすため、あらゆるレベルで働かれることを忘れないでください。ユダは、エジプトで会った人物との関係が自分たち家族の存続のカギであることを理解していました。

ユダはここでリーダーシップを発揮します。

ヨセフは、カナンにいる家族の生死を左右するだけではありません。周辺諸国すべての人々に食糧を与える責任がヨセフにはありました。

ヨセフは、もっとも完全なキリストの予型です。

イエス・キリストは、この世を救うことのできる唯一のお方です。

ヨセフのように、イエスをとおしてでなければ、他の人物も名前も方法も私たちに死と地獄から救うことはできません。

テモテ第一 2 : 1-7

2:1 そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。

2:2 それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。

2:3 そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。 2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。 2:5 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。 2:6 キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。 2:7 そのあかしのために、私は宣伝者また使徒に任じられ——私は真実を言っており、うそは言いません——信仰と真理を異邦人に教える教師とされました。

2. 神は、文化を無視なさない。神は文化を考慮して働かれるので、私たちもそうすべきである。

ヤコブが息子たちに世界の食糧配給の責任者への贈り物をたくさん持たせたことは、西洋文化では大きな意味を持ちません。

一方、皆さんもご存じのとおり、日本では、季節の贈り物が重んじられています。

私たち日本に住む外国人は、聖書の教えに反さない限り、この国の文化に合わせる努力が必要です。

残念ながら、日本に最初に来た宣教師たちは、地域の地主や長に贈り物を贈らなかったことが原因で、宣教の機会を失いました。

では、15 節以降に進みましょう。

2. エジプトの謎の人物との奇妙な会食 (15-34 節)

「タダほど高いものはない」という言葉があります。

それは、誰かに何かをもらったり、食事をおごってもらったりした場合、相手は何らかの見返りを求めているということです。

個人的な頼みごと、商談など、隠れた動機があるわけです。

ヨセフが兄たちを無料で食事に招待したのにも、明らかに動機がありました。それは、兄たちが今どんな暮らしをしているのか知るためでした。

父ヤコブが元気かどうかも知りたかったのです。

ここで忘れてはならないのは、大勢の人々がエジプトに穀物を買いに来っていたことです。

なぜ、この名もない兄弟たちだけが特別扱いされて、これほどの権力者の自宅でもてなされるのでしょうか。

当時、政府の高官の自宅に小さな牢獄があったことはよく知られていました。

18 節には、兄たちが恐れていたとあります。

兄たちは、ヨセフの自宅に招かれたのは、初めてエジプトに来た時に袋に戻されていたお金のことと関係があると考えました。

それで、ヨセフの家の管理者のひとりに、袋の中に戻されていたお金のことを話しました。そして、そのお金を返しに来たと告げました。

これに対し、管理者は 23 節で驚くような返答をします。

43:23 彼は答えた。「安心しなさい。恐れることはありません。あなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたのために袋の中に宝を入れてくださったのに違いありません。あなたがたの銀は私が受け取りました。」それから彼はシメオンを彼らのところに連れて来た。

ヘブル語の話せる管理者は、「シャローム・ラケム」と答えました。これは、「安心しなさい」と訳されています。

この言葉は、客人を迎えるときに昔から使われていたヘブル語のあいさつです。

管理者は、彼らの神、彼らの父の神がお金を与えてくださったのだと言いました。

14 節のヤコブの祈りを思い出してください。

43:14 全能の神がその方に、あなたがたをあわれませてくださるように。そしてもうひとりの兄弟とベニヤミンとをあなたがたに返してくださるように。私も、失うときには、失うのだ。」

管理者はお金を袋に入れたことを認めました。

そして、シメオンが連れてこられます。ヨセフ宅の牢獄から出されてきたのかもしれませんが。

兄弟たちは多少元気を取り戻したことでしょう。

少なくとも、お金を盗んだと告発されることはなさそうです。

26 節には、ヨセフが食事のために帰宅し、兄たちからあらゆる贈り物を受け取ったことが記されています。（日本人のようですね。）

兄弟は全員ヨセフの前にひれ伏しました。

ヨセフがヤコブのことを尋ねると、兄弟は再びひれ伏しました。

29 節には、ヨセフが弟のベニヤミンを見て気持ちが高ぶり、別の部屋に行って泣いたとあります。

ヨセフは顔を洗って気持ちを落ち着かせ、兄弟たちと食事をしました。

ヨセフは、兄弟たちとは別に食べました。それは、エジプト人はヘブル人と食事をすることを忌み嫌っていたからです。

ベニヤミンは、他の兄弟に比べて 5 倍の食事が出されました。

お酒もたっぷりあり、彼らはいい気分になりました。

まるで宴会のようでした。

しかし、兄弟たちはそれが何のお祝いかわかりませんでした。ヨセフだけがその秘密を知っていたのです。

この宴会が開かれているところで、ヨセフは忍者のようにふるまっていました。

誰にも悟られないよう何かをしていたのです。

先ほど、「タダほど高いものはない」と言いましたが、ヨセフも無料で食事をふるまう一方で、あることを密かに計画していました。

宴会が開かれている間に、ヨセフは管理者に言いつけて、お金を兄弟たちの袋に戻させました。

その上、ヨセフの銀の杯をベニヤミンの袋の口に入れておくようにとも命じました。

朝が来て、ベニヤミンもシメオンも他の兄弟たちも皆、帰りました。

全員、ほっと胸をなでおろしていたことでしょう。

持てる限りの穀物を手に入れ、前回戻されていたお金も請求されず、シメオンとベニヤミンも無事に一緒に帰れたのです。

父ヤコブもきっと、彼らのエジプト行きが成功したことを喜んでくれるでしょう。

ところが、兄弟たちが町を出てもなく、和やかな雰囲気を一変させる出来事が起こりました。

ヨセフの管理者が追いかけてきて、彼らのうちの誰かが「主人の銀の杯」を家から盗んだと言い始めたのです。

全員の袋を調べると、ベニヤミンの袋からヨセフの銀杯が見つかりました。

兄弟は全員でヨセフの家に戻りました。ヨセフは、ベニヤミンをヨセフの家に奴隷として残し、他の兄弟は穀物を持って帰ってよいと言いました。

ユダは、自分が残って、犯さなかった罪の罰を受けさせてくれるようにとヨセフに頼みました。

ユダは、ベニヤミンを無事に連れ帰るとヤコブに約束したので、ベニヤミンをエジプトに置いて帰ることはできませんでした。

ここから 45 章 1 節に入ります。

ヨセフは、気持ちを抑えることがもうできませんでした。

他の者を皆、その場から去らせ、その場にいるのはヨセフと兄弟たちだけになりました。

ヨセフはそこで声をあげて泣きました。その泣き声は、部屋の外にも聞こえるほどでした。

ヨセフは、ついに自分の正体を兄弟たちに明かしました。

創世記 45 : 4-8

45:4 ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか私に近寄ってください。」彼らが近寄ると、ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。45:5 今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、

私を遣わしてくださったのです。45:6 この二年の間、国中にききんがあったが、まだあと五年は耕すことも刈り入れることもないでしょう。45:7 それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったのです。45:8 だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。神は私をパロには父とし、その全家の主とし、またエジプト全土の統治者とされたのです。

このヨセフの言葉が、ヨセフの人生に起こったあらゆる謎を解くカギです。

では、今日の2章と8節分の箇所から、私たちがイエスとともに歩いていこうと励まされ、やる気を出させてくれる教えは何でしょう。

適用

1. 神は私たちの人生にご計画をお持ちです。そのご計画と道は、私たちのやり方よりもはるかにすぐれています。これは私たち全員にとっての励ましです。

ですから、神に人生を完全に明け渡すことで、神が立てておられる私たちへのご計画にすんなりなじむことができます。

イザヤ 55:8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——【主】の御告げ——

エゼキエル 18:25 あなたがたは、『主の態度は公正でない』と言っている。さあ、聞け。イスラエルの家よ。わたしの態度は公正でないのか。公正でないのはあなたがたの態度ではないのか。

ローマ 12 : 1-2

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

これは、私たちにとっての励ましであり課題です。

昔、ある宣教師が、5年間かけて新約聖書をアフリカの言語に翻訳していました。

これは、パソコンなどなかった時代のことですから、すべて手書きです。

ある日、彼が出先から家に帰ると、遠くに見える自宅が火事で燃えているのが見えました。家は全焼、5年間の翻訳の成果もすべて灰となりました。

宣教師は座り込んで泣きました。そのとき、神は彼に語りかけ、聖霊によって慰めてくださいました。

そのまた5年後、彼はなぜ家が火事になって翻訳したものもすべて失ったのかがわかりました。

彼はアフリカ部族とさらに言語の勉強を続け、その文化をよく理解するようになりました。それで、新約聖書だけでなく、聖書ぜんぶを翻訳する必要があると判断しました。

彼は、火事のおかげでやり直しのチャンスが与えられたと、神に感謝しました。

神は、この宣教師よりも偉大なご計画をお持ちでした。その働きは長年、アフリカのその地域で祝福されました。

2. 神はみこころに従って、祈りに応えてくださいます。これを励みとしましょう。

43 : 14 で、モーセはヤコブの祈りを記録しています。

43:14 全能の神がその方に、あなたがたをあわれませてくださるよう。そしてもうひとりの兄弟とベニヤミンとをあなたがたに返してくださるよう。私も、失うときには、失うのだ。」

神は、ご自身の時とみこころに従って、この祈りに驚くようなかたちで応えてくださいました。祈りの答えは、「ノー」である可能性もあります。それは、神が未来をご存じだからです。

祈りの答えは、「待ちなさい」のときもあります。神の 때가 最善だからです。その答えを受け取る準備が私たちのほうで整っていないのかもしれませんが。
そして、祈りがすぐさま応えられることもあります。神の目的に沿っているからです。
私たちが神との交わりを持っているなら、神は常に祈りに応えてくださいます。
皆さんの中には、神との交わりをまだ持っていない人もいるかもしれません。イエス・キリストに自分の罪を告白して、神との交わりを始めたと思いますか。

イエスは私たちの罪の罰を受けて、十字架上で死んでくださいました。そして今、ありのままにイエスのもとに来るようにと招いておられます。
礼拝後の祈りの時間にそうすることもできます。
祈りはとても大きなトピックです。今年のリトリートに参加しなかった人は、ぜひ、リトリートで使った祈りの教える資料をもらってください。きっと役に立つでしょう。

3. 神はしばしば、人生の苦難を用いて、私たちがイエスに出会わせ、イエスの近くにとどまるよう導かれる。

貧しい国の人々のほうが、裕福な国の人々よりもキリスト教の福音にオープンだと言われます。裕福な人、経済的に自立した人、生活の安定した人は、神も福音も無視しがちです。
つらい目に遭って霊的に落ち込んだときに、人は神に助けを求めます。他に助けてくれる人がいないからです。
満たされないと感じたり、何かたいへんなことが起こったとき、多くの人は生きることを探し始めます。
このような時にこそ、神はその人たちの最大のニーズに答えてくださいます。
人類の最大のニーズは、イエス・キリストです。
クリスチャンの最大のニーズは、さらにイエスを求めることと、神の恵みです。
英国にいる私の友人は、以前、銃を持って郵便局強盗を繰り返し、刑務所に入っていました。服役中に、保護司がイエスのことを証してくれたそうです。
彼は神に助けを求めて叫び、救われました。
神は彼を、ガンビアの宣教師になるよう召されました。そこで逮捕され、牢に入れられ、毎週拷問を受けました。
彼が入れられた牢はあまりにも小さく、身動きさえままならないほどでした。
私は彼の書いた本を読んで、それほどの苦しみを受けたことに何度も泣きました。
けれども、奇跡が起こって彼はそこを脱することができました。
心身ともにぼろぼろになった彼に、カウンセラーは自らの体験を本にするよう勧めました。
彼はそのとおりにし、その本のタイトルを「語るべき時」としました。
神はこの本を用いて、福音を多くの人々に届けてくださり、たくさんの方がクリスチャンになりました。

彼は大きな苦しみに遭いましたが、それが神の栄光となりました。
神に助けをいただいて、私たちが神を信頼できますように。神のご計画が私たちの計画をつぶすときも、神を信頼できますように。

(デービッド・フルトン氏が語るガンビアでの経験の証をYouTubeでお聞きになれます。
David Fulton's Talk on his experiences in the Gambia 09/10/14 at Winchester University で検索してください。)